
追憶の時～イロ者少年少女シリーズ番外編～

汀

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

追憶の時〜イロ者少年少女シリーズ番外編〜

【Nコード】

N0274E

【作者名】

汀

【あらすじ】

汀の『イロ者少年少女シリーズ』、題名の通り番外編です。短編のはずが前後編となりました。ベルモットとオリキャラ3名が出ます。初見の人でも、一応話自体は理解できるように作っています。組織壊滅前と組織壊滅後、ある看護師とその妹の話です。

前編

「FBIに撃たれてアバラ折ったんですか、大変でしたね」

全く大変そうでない雰囲気で、その看護師はのんきに言った。

組織のアジトの医務室横にある、病室エリア。

その一室で、ベルモットは危うくキレそうになる。

担当看護師は、若い、ショートヘアの女。

緊張感が無くフワフワした感じで、犯罪組織の看護師だとは思えなかった。

当然、その雰囲気のままに、あっさりと医療ミスをやらかすのではないかと思ってしまう。

何でこんな女が担当に……

心の中で毒づきながら、ベルモットは強くシーツを握りしめる。きのうアバラを折った身、大声を出すのは自分が疲れるだけだ。

ベッドの上で目を閉じて、彼女はこのケガを早く治そうと決意した。

入院生活を早く終えるに越したことはない。

……そうならば、この頼りなさそうな女から離れられる。

FBIの赤井に撃たれた翌日の、病室の思い出。
重要なことではなく、更に言えば嫌な記憶。

ケガが完治して、退院、現場復帰、更に色々あって……

もはや忘れかけていた。

組織が滅び、自身は逮捕され、大変な状況が続き。

だから、組織壊滅から1年以上経ち、看護師の意外なその後を知るとは、思ってもいなかった。

「ベルモット、貴女は入院したことがあると聞いた。

……FBIに撃たれて入院した、と」

「それがどうかしたの？」

後部席からの、17歳の眼帯の女の問いに、ベルモットはそう答えた。

以前ジンが所有していたポルシェの、車内。

この車の今の所有者は、ジンではなく名無しの男で、

……ちなみにその名無し野郎は、現在運転席に座っている。

「アジトの医務室そばの病室に、入院したのか？」

「ええ」

「担当看護師がどんなヤツだったか、覚えているか？」

「それは……、」

短い髪で、世間知らずみたいで、フワフワした子だったわね」

「体格は？」

「小柄だったわ」

眼帯の女　六鷹綾乃は、小さく息を吐いた。

「じゃあその看護師は私の姉だ。

……姉はそこで働いていた」

「え……、名前は？」

信じられなかった。

雰囲気は全く異なる上、間違いなく綾乃の身長は、あの時の看護師を大きく超える。

「信乃^{しの}、六鷹信乃だ。

ちなみに享年は19」

享年、ということとは。

「……亡くなったの？」

言葉を選んでいるのか、綾乃の返答は数瞬遅れた。

「黒の組織のアジトが火災で燃えた時、姉は火傷を負った。

警察病院で入院していたが、……退院目前になって屋上から飛び降りた。

……もっとも、警察の警備が甘かったのか、姉が警備を超える実力を持っていたのかは知らないが」

「えっ？」

今度こそベルモットは驚いて、思い切り振り向く。
知っているのだ。

飛び降り自殺をした19歳の彼女が、その前に何をやったのか。

ベルモットが言いたいことが分かっているのだろう、綾乃は頷く。

「姉は、……組織内に保管されていた構成員データに火をつけた。

逃げ遅れて火傷して、……組織壊滅の後に自殺した。

犯行時も死亡時も未成年で、本名は報道されていない。

早々に逮捕された貴女は、知らなかつたんだろう？

放火犯が看護師で、……私の姉だということを」

「……ええ」

前編（後書き）

あとがき

後編は現在推敲中、明日投稿予定です。

以下、どうでもいい補足です。

冒頭の入院シーンの「FBIに撃たれてアバラ折った」というのは、ベルモットが港で赤井に撃たれた事件を指します。

時期的にはベルモット「新出先生だったのがばれた後ですね。

後編

かつて、大きな犯罪組織があった。

1年以上前にアジトが燃え、滅び、

……しかし完全には、構成員が捕まらなかった組織。

組織壊滅直前に、アジトの資料置き場に放火した者がいた。

その結果、構成員データは復元不可能な状況になった。

警察は、構成員達に関する一番の手がかりを失った。

それでも、組織の幹部達の状況は違った。

放火されたのは、あくまでも日本のアジト。

外国の構成員データに、日本のような損傷は無かった。

あの組織の幹部たちは、大抵、外国のアジトにも関わる。

だがそれは、現地のデータベースに自分達の情報が残るとい
うことだ。

日本の警察は、外国の警察から幹部たちの情報を得たのだという。

かくて多くの幹部が捕まり、一方でかなりの末端の構成員が野に
放たれる。

……日本に限った話であるが、今も未逮捕の構成員が多数いる状
況は変わっていない。

その組織に正式名称は無い。

だが通称はあった。

ベルモットがよく知る探偵が、付けた名前。

その犯罪組織は、『黒の組織』という。

構成員のデータに火をつけたのが、19歳の女だとは知っていた。その女が火傷で入院し、しかし退院前に自殺したことも知っていた。

……だがベルモットは、これまで、それ以上の情報を知らなかった。

漠然と、組織に対する忠誠心が強い子なのかと思っていた。捜査妨害のために放火し、その後組織壊滅に絶望して自殺した子。忠誠心に裏打ちされた気の強さを持つ、……そんな女だと。

かつてジンが所有していたポルシェの中。今の所有者であり、運転席に座るネームレスが突然に口を開いた。ベルモットが嫌う、白髪にミラーシェードの名無しの彼は、口角のみを上げた笑い顔で。

「意外な話だろ？」

信乃は、放火や自殺をやらかしそうなやつじゃない」

「……確かに意外ね」

「僕の教え子だったんだ、信乃は。」

ベルモットなら知ってるだろうけど、僕は組織内で教官をしていた。

もっとも、信乃が17歳になって、僕の教え子じゃなくなったけど」

嫌いな男に、思わず皮肉を言いたくなった。

「その教官が、組織の残党使って新しく犯罪組織を作ったことも意外に思うのだけど？」

拘置所にいる人を誘拐するだけの技能を持っていたのも、もっと意外よ。

そんな技能があること、私は知らずにいたのに」

……もし誘拐されるリスクを知っていたら。

あり得ない仮定だが、ベルモットは考えずにはいられない。

この名無し野郎に誘拐されたのに、被害者でなく、脱獄容疑者として手配されている我が身。

無理矢理この男に従わされていることは、彼女にとってかなりの屈辱だ。

「落ち着こうよベルモット、信乃の話に戻るよ？」

結局のところさ、僕も信乃も綾乃も、……組織に縛られたままなんだよ。

綾乃は忘れられないだろ？ 組織のこと」

「忘れるわけがない。

……貴女はどうなんだ、ベルモット」

「私は……」

ベルモットは言葉に詰まり、しかし数瞬の後に肯定した。
苦しい記憶であろうと、忘れるわけがない。

それを聞いた運転席のネームレスは笑みを濃くし、

そして、……後部席の綾乃は沈黙する。

会話の間も走り続けるポルシェの中で、ベルモットは考え込んだ。会話のきっかけは、前触れもなく、綾乃が姉に関する話題を振ったこと。

綾乃はこのことを誰かに話したかったのだらうと、ベルモットはそう思う。

あの看護師が何を思って行動したのか、正確なことは誰にも分かりようがない。

だが間違いなく言えるのは……、
つらいことであるうと、忘れられない記憶があるということだ。
組織に関わった者ならば、誰もがそんな記憶を持つのだらう。

特に黒の組織で育った綾乃にとって、家族の記憶は組織の記憶と同義だ。

きつと忘れろと言われても忘れないだらう。
その記憶は間違いなく、綾乃の一部なのだから。

だけでも、組織のことを覚えていることは、イコール組織に縛られていることなのだらうか。

おそらく過去の記憶に縛られるということは、つらい出来事を思い出す時に苦しくなるということだ、

と、そこまで考え。

今度は振り返らずに、ベルモットはミラー越しに後部席を見

る。

苦しんでいるのかは分らないが、少なくとも。

性別の割に屈強な体格の眼帯の女は、感傷の中で姉を追憶しているように見えた。

後編（後書き）

あとがき

リハビリ明けに書いた習作。

雰囲気はどれだけ書けるかということと挑んでみました。

以下、どうでもいい補足です。

信乃は看護師として組織内で働いていましたが、正規の看護師資格を持っていたわけではありません。

組織内で看護訓練を受けた、あくまで組織のためだけの看護師でした。

看護師として適性を問われたのではなく、犯罪者に向いてなさそうなので、幹部がそうじゃない訓練を受けさせた……という設定です。

（ちなみに訓練期間は17歳から19歳までの2年間）

ですが意外なことに、彼女は誰よりも組織の構成員らしいことをやらかして、死んでいきました。

あと時系列がややこしいので一応書いておきます。

一読しただけじゃ分かりづらいと指摘がありましたので。

・ベルモット、赤井に撃たれて入院。

この時担当看護師が信乃。

・ベルモット退院・現場復帰。

・（しばらくたって）組織壊滅。

信乃、構成員データに放火、逃げ遅れて火傷を負う。

警察に保護され警察病院に入院。

・（その直後）ベルモット逮捕

・（ほぼ同時）組織の教官だったネームレス、新しく犯罪組織を作る。

信乃の妹である綾乃も、その組織の構成員となる。

・退院目前の信乃、警察病院で飛び降り自殺。

・（壊滅から1年以上後）

ネームレス、ベルモットを拘置所から連れ出す。

実質的には誘拐だが、脱獄事件として警察は捜査開始。

ベルモット、ネームレスに従うはめに。

ちなみにベルモットが自首しない理由は、そうすると極刑を受ける恐れがあるという事情もありますが、

再び逮捕され独房に入っても、またネームレスに誘拐されるからたぶん無駄、

……という考えもあると思います。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0274e/>

追憶の時～イロ者少年少女シリーズ番外編～

2008年11月7日06時35分発行